

「親の学習」プログラム

5-5

今どきの子どもの友人関係？

赤ちゃんだった頃、よちよち歩きの頃、可愛らしかった子どもも、今では半分大人になっています。小さな頃は、ご近所の子たちと遊んでいた子も多いと思いますが、その関係は今でも続いていることの方が少ないものです。

今回は、今どきの中学生、高校生ならではの友人関係の様子について考えてみましょう。

ワーク
1

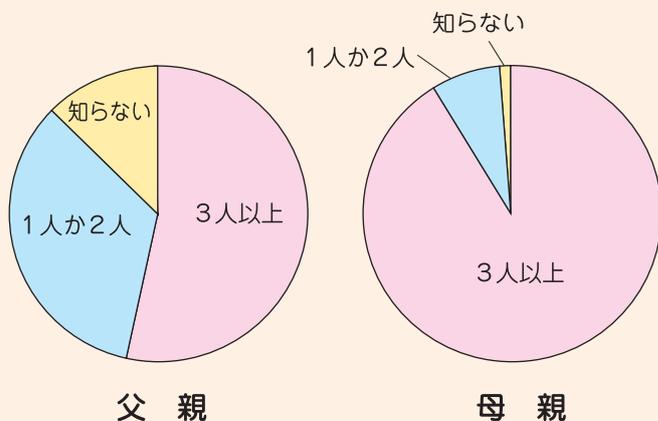
今、どんな子とつきあっているか知っていますか？

あなたのお子さんは、普段だれと仲がよいかを知っていますか？また、その子の顔が浮かびますか？そのような子は何人くらいいますか？つぎの資料を見て、気がついたことを自由にメモしてみましょう。

資料

友だちの顔と名前を知っているか？

お子さんの友だちの顔と名前を何人くらい知っていますか？（保護者対象）



この差を
どのように
お考えに
なりますか？

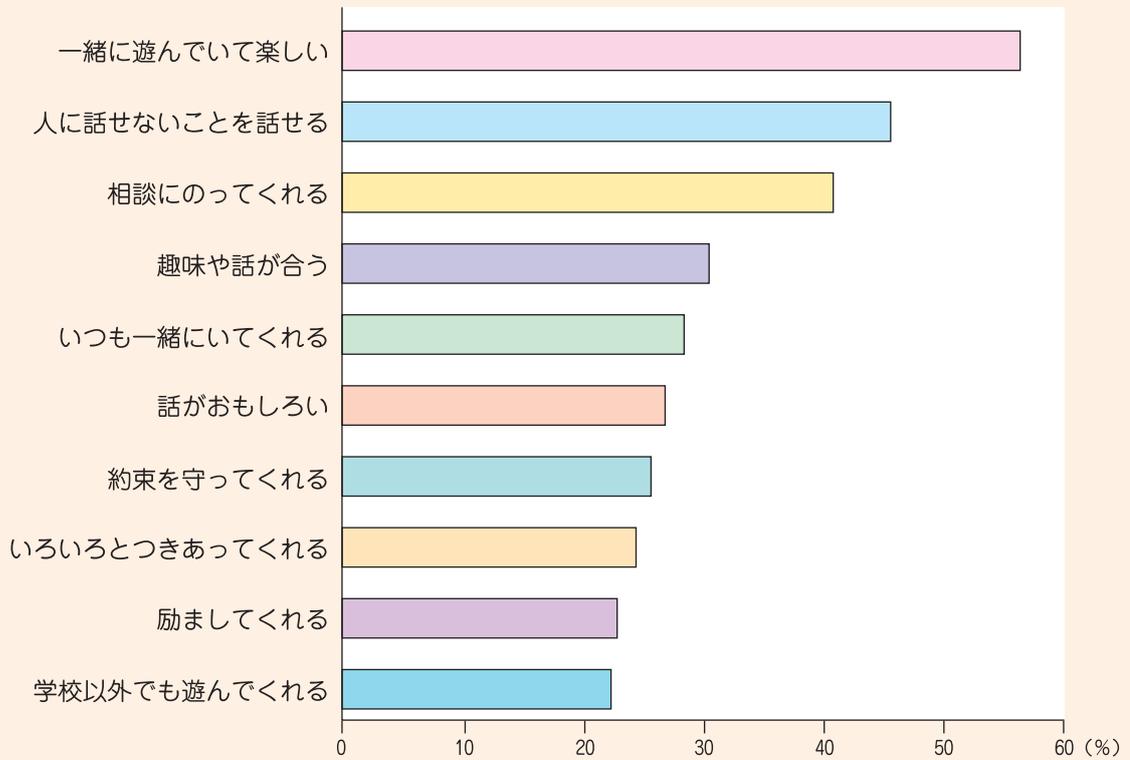


★たまには子どもがどのような友だちと過ごしているのかに目を向けてみてください。もしかしたら、子どもの新たな側面に気づくかもしれません。

新潟市教育委員会『思いつき中学生！そのころとからだ』（平成13年）

資料

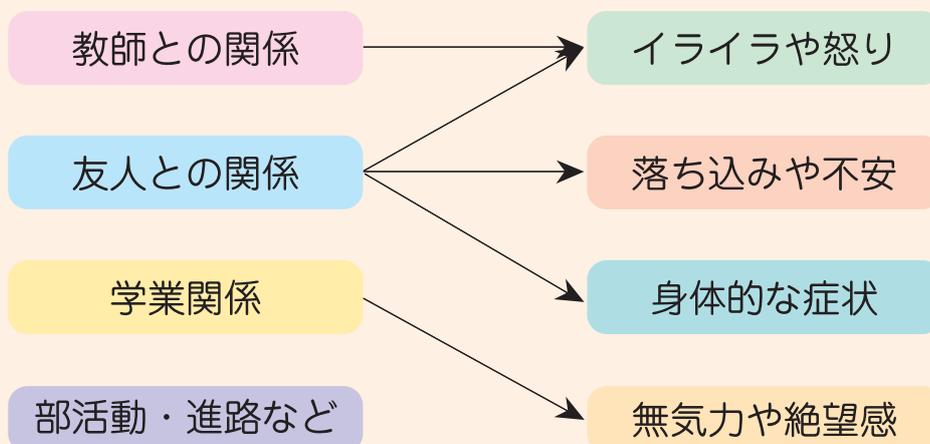
あなたにとって「大切な友だち」とは？（中学生対象：複数回答）



新潟市教育委員会『思いっきり中学生！そのころとからだ』（平成13年）

資料

児童生徒のストレスとストレス反応の関係



嶋田洋徳『子どものためのストレス・マネジメント教育（竹中晃二編）』北大路書房（平成9年）

ワーク
2

コミュニケーション実験をやってみましょう。

今、多くの学校では、友人関係をうまく営むための練習を取り入れています。友人関係のあり方は、学校での生活や学習を左右する大きな要因になっているからです。その学校での取り組みの一部を体験してみましょう！

資料

コミュニケーション実験とふりかえり

「こころ」の総合学習

実験 1

1. 2人組になって役割を決める。
→ 一人は話す人、一人は聞く人。
2. 話す人は今日の出来事を時間を追って話す。
→ 朝から経験したことを順番に。
3. 聞く人は「石」になる。
→ 黙って相手を見る。身体を動かしてはダメ。

「こころ」の総合学習

実験 2

1. 実験1と役割を交代。
→ 話した人は聞く人に、聞いた人は話す人に。
2. 話す人は今日の出来事を時間を追って話す。
→ 朝から経験したことを順番に。
3. 聞く人は「うなづき」だけで、次のことを伝える。
→ ①言っていること（意味）が分かったよ。
②なるほどねえ〜。
③分かったよ、そろそろやめてよ！

忘れがちな「あたり前」のこと

人は、自分の考えだけで行動しているわけではない

↓

周囲の反応を手がかりとして

次の行動を（意識的、無意識的に）決めている

↓

つまり、人間関係は相互作用で成り立っている

自分が変わると「相手の反応」が変わるかも！！

相手が不快に思うのはどんな時？

- ・話をしているのに、「聞いているぞ」のサインが返ってこない。
- ・自分の話が、途中でさえぎられる。
- ・もう話をやめてほしいのに、話がずっと続く。
- ・自分の話が、否定ばかりされる。
- ・自慢話がすごく多い。

相手が不快に感じてしまうと・・・

- 「イヤな性格」だと思われる。
- もう話をしようと思わなくなる。

友だち作りが上手な人は、上手にコミュニケーションしているのです。

嶋田洋徳 『学校におけるSST実践ガイド』金剛出版（平成18年）
（佐藤正二、佐藤容子編）

コミュニケーション実験を体験しての感想を書いてみましょう。

**ワーク
3****子どもとのコミュニケーションを見直してみよう。**

思春期に入ってくると、だんだん「言うことを聞かなく」なってきます。もう保護者の考えだけで、100%子どもを動かそうと思っても、どこ家庭でもそうはいきません。昨今多く報道される子どもに関連する事件は本当に心が痛みます。

保護者の責任を叫ぶ声も聞こえてきますが、私たち自身を振り返ってみても、自分の保護者に心の底からすべてを伝えていたでしょうか？そんな難しい年頃の子どものつきあい方について意見交換をしてみよう。

メモ

ふりかえり

皆さんの意見を聞いてどう思いましたか。今日の感想を書いてみましょう。